

平成 21 年度第 1 回新潟空港アクセス改善検討委員会を開催しました

新潟県は、関係機関等の協力により、新潟空港のアクセス改善について、平成 18 年 12 月の「新潟空港アクセス改善検討委員会」の提言を受け、事業効果の検証や情勢の変化を踏まえた継続的な見直しを行いながら、超短期、短期、中・長期と段階的取組により進めています。

有識者による「新潟空港アクセス改善検討委員会」の第1回の委員会を、下記のとおり開催しました。会議の概要は以下のとおりです。

記

1. 日時・場所

平成21年6月11日(月)14:00～16:00

新潟県自治会館 本館2階 201 会議室 新潟市中央区新光町4-1

2. 委員の構成等 添付のとおり

設置要綱に基づき、委員の互選により、長岡技術科学大学の中出文平教授をこれまでに引き続き委員長に選出した。

今年度より、広く県民に情報を発信することとし、本委員会は公開で実施することとした。

3. 主な議論・発言等

(1) 今年度の主な取組

今年度の主な取組内容について事務局から説明し、了承された。

○ 短期的取組〔南口空港バス新設〕

- ・ 本年 4 月 1 日から運行を開始した新潟駅南口発着空港リムジンバスの利用者の動態や満足度等を調査し、南口空港バスの事業効果の検証を行う。

○ 中・長期的取組〔軌道系アクセス案の課題検討〕

- ・ 軌道系アクセス案(臨港貨物線活用案、在来線活用案、新幹線活用案)の技術・安全面の課題を中心に実現化に向けた検討により、案の絞り込みを進め、今年度で概ねその検討が終了する見込。
- ・ PDCAサイクルにより短期改善策による空港利用者増に向けた取組を進めるとともに、中期改善案が実現を想定する「2014 年頃」を見据え、需要や社会情勢の変化等も踏まえながら、中・長期への準備を進める必要がある。
- ・ 次のステップとして、事業化に際する制度面の課題、需要、採算性等の課題、さらに昨年度から継続中の民間資金を活用した事業化可能性についても、順次検討

を進めていく。

(2) 短期的取組について（新潟駅南口空港バスの運行について）

4月1日から運行を開始した新潟駅南口空港リムジンバスの経過と現在の利用状況等について、事務局から説明を行い、意見交換を行った。

- ・ 南口空港バスについては、利用者数の動態やサービスへの満足度等の継続的な調査・検証を行い、一層の利便性の向上と、利用者増加につながるよう努める。

主な委員意見

○ 万代口バスについて

- 5月から万代口の空港方面行きバスが復活し、万代口側の利用者の利便性がよくなった。

○ 南口空港バスについて

- 南口空港バスに乗車する機会があった。バスは停留所に早めに到着しており、荷物スペースが確保され、出し入れも以前に比べて便利になった。新潟駅南口にはエスカレータ、エレベータが設置されている。乗降環境が改善され、乗継利便性が向上した。
- 利用状況、効果等についてしっかりと検証を行ってほしい。
- どれだけの予算を投入し、どのような効果が上がったか、また、料金の値上げも行った訳であるが、収益面で問題はないのか等の検証も必要なので、検証できるデータの収集を行ってほしい。
- アンケート調査では、料金に関する満足度や自由意見の分析等も行うべき。
- 新潟空港は会津若松の利用者もいる。広報活動に力を入れ、利用者の増加につなげてほしい。

(3) 中・長期的取組について

これまでの検討状況や、昨年度の検討結果から明らかになった臨港貨物線活用案（LRT 案）及び白新線延伸案のルート案の概略や課題等について、事務局から報告を行った上で、意見交換を行った。

① 臨港貨物線活用案(LRT 案)

● 新潟駅～臨港貨物線接続間の幹線道路上にLRT軌道を敷設する案

新潟駅～東大通り～明石通り～県道新潟・新発田・村上線～臨港貨物線のルートを想定して、以下の課題が見つかった。

(H20 調査で抽出された課題)

- ・ 新潟駅への乗入れ
- ・ 交差点処理
- ・ 道路幅員の問題
- ・ 現況交通への影響
- ・ 臨港貨物線へのアプローチ、接続方法
- ・ 定時性、速達性を確保した運行 等

② 在来線活用案(白新線延伸案)

● 白新線から分岐して新潟空港へ接続する案

白新線からの分岐地点を設定した上で、想定される複数のルート案の概略の検討を行った。

<主なポイント>

- ・ いくつかの想定ルート案が示されたが、概ね大規模な支障物を避けたルート設定が可能と思われる
- ・ 大規模な住宅移転が必要となる地区が生じる
- ・ 中間駅設置により、文教施設、周辺住民等の利便性の向上が期待される

<主な課題>

- ・ 大形駅の大規模改良が必要
- ・ A滑走路の廃止、短縮や施設利用の見直しが必要
- ・ 大規模な横断構造物が必要

主な委員意見

○ 臨港貨物線活用案（LRT案）について

- LRT案については、道路交通の計画と一体で進めないと難しいだろう。
- 定時性、速達性を確保した運行について、空港アクセスとしてノンストップで空港まで行くという考えでの検討であるが、沿線利用者を取り込んでいくという考え方もある。そうすると、むしろ新潟市の都市内交通の話になるが、新潟市としても、検討を行ってもらえるとありがたい。
- 白新線延伸案では、市街区域の開発といった考えも必要であるし、新潟市中心部の活性化にLRTを使いたいといった経済界等の意見もあるようだ。都市交通的な検討も新潟市、県、本検討委員会のマッチングで検討を進めてはどうか。

(4) 今後の進め方

軌道系アクセス案(臨港貨物線活用案、在来線活用案、新幹線活用案)について、事務局から報告を行った上で、意見交換を行い、次により検討を進めることとした。勉強会、委員会での検討をリンクさせ、議論を進めていく。

また、新幹線延伸案について、これまでは、北東アジア地域との交流が劇的に変化するなど、航空需要が飛躍的に伸びないと難しいという議論をしてきたが、北陸新幹線延伸により、思ったより上越新幹線に影響が生じることもありうる。このため新潟の将来も考えながら、新幹線を活かすという観点から、これまでの役割に新たな機能を付加することも含めて、本腰を入れて検討に取り組む。

① 技術・安全面の課題の検討[H19～継続]:

案の絞り込みの検討が進み、今年度で概ね終了する見込

② 次の検討ステップ[H21～]

①の検討に加え、以下についても、順次本格的に検討を進める。

- ・ 事業化に際する制度面の課題、需要、採算性等の課題、
- ・ 昨年度から継続中の民間資金を活用した事業化可能性

主な委員意見

○ 中・長期的取組全般について

- 中期、長期の位置づけの整理をした方が良いのではないか。
- 新潟空港の利用者数は減少してきている。そうした状況下で、あくまで空港直結なのか、周辺住民の需要も取り込んでいくのか等を早めに結論を出すべき。仙台空港アクセス鉄道等の先進事例を参考にして検討する。
- 新潟市は、新潟駅から新潟市中心部への交通を基幹公共交通軸と定め、将来に向けて新たな交通システムの検討を始めた。進展に応じて随時報告、情報提供をお願いしたい。

○ 本年度は3回程度検討委員会を開催する。

本件についての問い合わせ先 交通政策局 港湾振興課 企画班 (内線)3458 (直通)025-280-5456 担当： 中川、鈴木、覚張
